

**山梨県歯科医師連盟****連盟ニュース 第61号**

□発行

山梨県歯科医師連盟 甲府市大手 1-4-1  
TEL : 055-252-6481 FAX : 055-253-0854□発行人 諸角三千夫 HP : <http://ydpf.jp>

□編集人 諸角三千夫 馬場 康二

山梨県歯科医師連盟機関紙

**平成30年度 山梨県歯科医師連盟時局講演会開催**講師 兵庫県議会議員 **高橋 しんご** 先生

平成30年11月8日(木)19時より、山梨県歯科医師会館3階ホールにおいて、標記時局講演会が開催されました。今回は講師に、兵庫県議会議員の高橋しんご先生をお招きして、『歯科医師が行政と政治に挑み続ける理由』と題してご講演いただきました。

高橋しんご先生は、東北大学歯学部をご卒業後、歯科医師免許取得、大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学で医学博士号を取得、神戸市で歯科医院開業後、兵庫県議会議員選挙当選、現在兵庫県議会副議長を務められております。その間、鹿児島大学医学部に学士編入し、医学部の単位も取得しておられます。(医師免許は取得していない。)

今回、高橋しんご先生は、来年の次期参議院比例代表選挙に出馬することを決意し、10月30日に自由民主党(以下、自民党)より正式に公認を得られました。

**『歯科医師が行政と政治に挑み続ける理由』**

高橋しんご先生は、次期参議院比例代表選挙に立候補予定で、自民党から正式に公認を得ました。国政に行って国政の現場で何をしたいか、今回の講演でお話いただきました。

**講演内容** 国政で何をしたいのか、3つの目標。

1. マクロとしての医療費をしっかりと獲得する。
2. ミクロとしての医療費をしっかりと獲得する。
3. 歯科医師の働き方改革。

歯への投資によって、健康寿命を延ばして命を長らえるということがわかってきた。上記1. 2. の目標として、歯科医療に関する提言、歯科医療費が相対として医療費全体の中でどれくらい占めるべきかを明確に目標として示したい。30年前全医療費は20兆円、歯科は2兆円以上、歯科が占める割合が12.4%という時代があった。20年前は全体で30兆円、歯科が2.4兆円で10%を切った。現在は全体で42兆円、歯科は2.8兆円で6.8%。きちんとしたエビデンスを出すことで歯科が臨床的に外科医なんだということをもっと証明をしていく。日本歯科医学会がタイムスタディー調査をしているがそれぞれの手技にかかる技術料がどれだけ必要なのか、今かかっているコストに対して、どれだけ解離があるのかもしっかりと示した上で、それを政治的な発信力をもった方と一緒に連携して形にしていきたい。

1つ目の大きな医療費の目標としては、10%を目標にしたい。日歯連盟として、打ち出している約42兆円の10%の4兆円程度を目標にした歯科医療費の枠をとることがマクロの目標である。

2つ目の目標は、ミクロの目標として、基本的に外科医としての臨床に携わる歯科医に対して外科医としての必要なコストを求め、それぞれの診療報酬の点数をしっかりと見直す。内科医ベースの医科と外科医ベースの歯科医のコストをしっかりと計算した上で医療経済的に納得できるような診療報酬をつける、その目安は日本歯科医学会が出しているタイムスタディー調査だ。きちんとした外科医としての医療経済的な分析を元にした訴えで、ミクロの歯科医療費を獲得していきたい。

3つ目の目標は、歯科医師の働き方改革。歯科医師の働き方が、偏っている。医師は全国で約320,000人。そのうち開業現場で働く割合は32%、勤務医現場で働く割合は63%、行政現場は1,740人いる。歯科医師は105,000人で、開業現場85%、勤務医現場12%、行政現場350人。国民のために国民の歯科保健事業を地域からしっかりと進めるために、色々な所で働く行政歯科を増やすことが大事。勤労世代に対する中小企業へのアプローチ。労働安全衛生法の中で産業歯科医を義務化する規定がない今、産業歯科医がいない。きちんとした産業歯科医をつけて歯周病が悪化する前にしっかりとみることで、齶蝕処置を早い段階でかかりつけ歯科にしっかりと通わせるので予防面でも治療面でも大きなリターンがあると考え。だから労働安全衛生法で産業歯科医を位置づけることが大事。色々な所で働ける、企業の現場で働ける、行政の現場で働ける、病院の入院患者、高齢者施設の入所者にきちんと常設の勤務医として歯科医師が対処すべきだ、あるいは歯科衛生士がそこでちゃんと働くべきではないかと考える。そうするとガラリと歯科医の働き方が変わってくる。今よりもっと色々な所で歯科医が働けるようになるのではないかと考える。

以上、3つの目標をまとめると、

1. マクロとしての医療費をしっかりと獲得すること。
2. 外科医としての診療報酬の技術料の上乗せと管理料をしっかりとのせることで個々の診療報酬点数の上乗せを計ること。
3. 開業・勤務・病院・企業・行政と色々な所で働ける歯科医師の可能性を広げること。

この3つの目標を訴えて、1億2千万人の国民の健康寿命延伸をするのは“歯科からなんだ”と大きな声をあげていきたいと思っております。